

3月19日保護者説明会の説明概要（配布資料）

1 経過説明

昨年6月23日に立ち上がった調査委員会の最終報告書を受けて、1月に学長より業務改善が指示された。主として、学習指導要領の遵守と教科書使用の徹底、学校組織管理の問題について改善を求められた。加えて、文部科学省は全国の国立大学附属学校へ適正な教育課程の実施と人事交流の促進を通知した。

一方で、大学による教育課程等の調査や人事交流について、附属小を守る立場から反対する意見が多くあり署名運動も行われることとなった。教育の自由を守ることと、無理な教員人事はすべきではないということが広く議論となった事実があった。

ただ、それらを踏まえ、様々なご意見を聞かせていただきながらも、小学校としては、まずは子どもに関わる回復措置などの改善についてしっかりと進めていき、2024年度の教育活動について前向きにスタートを切りたいと考えている。

2 回復措置の進捗状況と2024年度の指導計画について

特に小学校の改善として指摘された3点、①回復措置の実施、②教科書使用・観点別評価の遵守、③年間指導計画の適切な作成については、現在計画通り順調に進められている。

3 次年度からの学校体制について

- 教職員人事における「出向」等については、独自採用の教員19名のうち、3名が公立小学校へ、1名が機構内の女子大附属小学校へ出向となり、3年程度他校での勤務を経験する。また、これとは別に、県から派遣されていた校長を含め4名の教員が県に戻ることもあった。それに伴って、県からは5名の教員（教頭・主幹教諭を含む）が、女子大附属小学校からは1名の教員が転入し、新校長が新たに採用される。
- 教員を希望する人の数は年々減少し、本校でも単年度採用の教員の担い手を探すことが難しくなっている。出向に加えて、欠員が生じると、これまで同様の附小教育の担保は難しくなる。

4 2024年度の附小教育について(2025年度以降は検討中)

- 新しく来ていただく教員が増えることにより、「クラス替えなし」の学年は、5・6年生のみにし、3・4年については「クラス替え」をすることとなる。(2025年度は未定)
- 「あいぼう」や「児童会づくり」など、できるかぎり附小で大事にしてきたことは継続して取り組む方針だが、ヒロシマ修学旅行、体育大会、和歌山旅行、全校美術展、全校音楽会、全校集会なども、その質や規模について継続性が保てなくなる可能性がある。今の時点で明確に示せないが、次年度の教育活動を進める中で、変更するケースが生じる場合には、何卒ご理解いただきたい。
- 通級指導や専科についても継続性は重要だと考えるが、今後の見通しは立ちにくい状況がある。
- 一方で、目の前の子どもたちの育ちをおろそかにはできない。「子どもの主体性を大事に育てていく」ことや、「成長・発達を信じて徹底的に待つ」ことなど、これまで大事にしてきた教育理念について手を抜くことはしたくない。保護者の皆様には、これまで同様に、一緒になって新しい附属小教育の充実に力を貸していただきたい。どうかよろしくお願ひしたい。